

奈良・人と自然の会



東海自然歩道観察会

宮 玲子

〈第2回シリーズ・東海自然歩道自然観察会〉の第1回目が10月30日に曾爾高原から始まりました。7月2日の到着場所を基点として、折り返し逆に歩いていきます。

当日、天気は快晴。参加者38名。南出口バス停より出発。

まず、山里の田んぼや畑など道端の植物から。ナギナタコウジュ、ミゾソバ、ヨメナ、タデ類、アキノキリンソウ、オヤマリンドウ、ベニバナボロギク、リュウノウギク等。秋らしい草花がいっぱいです。

亀山峠への山道に入るとアケビ、サルトリイバラ、珍しい白のツリフネソウやスズメウリ等が見られます。

曾爾高原のススキは、やはり、この日のメインだけあって、素晴らしい景観に圧倒されます。ところどころにウメバチソウやリンドウがヨシの根元からのぞいていました。

さて、この日、特に印象に残ったのはツルリンドウとツチアケビの実でした。ツルリンドウは、ちょうどこの日の朝日新聞の夕刊『花折り折り』に載っていました。紹介しますと、「晩秋の山の林床で、ひときわ目を引く、一見赤い実が落ちているよう。つる状の茎が地をはったり、やぶにからみ、葉の腋に小さな実がなる。リンドウの仲間とはとても思えない。泉鏡花が『斧琴菊』でつると紅紫の実の意外さを書いたリンドウは、塚谷裕一氏の指摘したように本種であろう。」とありました。ツチアケビの実は、7月2日に見たランのような花とはとてもむすびつかない、奇異な風情でありました。真っ赤なソーセージのような、でも、縦に割れた形はまさにアケビのようでした。1度見たら忘れられないでしょう。

歩きながら、ふと目を周りの山々へ向けると、秋なのに紅葉の少ないのに気がつきます。平地以外は、植えられるだけ植えたと思われるほど、濃い緑の植林がめだちます。それだけに、植林の及ばない自然林といえば、垂直に屹立した岩壁や断崖を含めた景色であり、そこでは、赤や黄色の紅葉の美しさが際立って見えます。

暑くも寒くもない、すがすがしい一日を、前回とはまた違う景色に感動しながら歩きました。

11月18日早朝の冷え込みは、大阪では、考えられないものでした。比較的薄着をしてでかけたのですが、近鉄電車の中は、暖房がされているのに、寒さを感じ、榛原あたりの車窓からは、霜がびっしり白く覆っているのが見えました。奥香落はどんなに寒かろうとおもい、名張についたら、寒かったらこのまま帰ろう。と思いながらいたのですが、到着してみると、快晴でとても気持ちの良い気温でした。

太郎路では、一番に太郎路橋の清流でカワガラスが迎えてくれました。鎧岳の柱状節理の岩肌と黄褐色に紅葉した樹木と紺碧の空との鮮やかなコントラストは目を見張るものでした。リンドウの花、ツルリンドウの宝石の様な赤い色、サルトリイバラの透明な赤い色。クサキの紺色とワインレッドの色あわせ、カラスウリの橙色や赤い色に感激をしながら歩き、済浄坊溪谷では滝に沿って上り清流の青く澄んだ清らかな水の色には感激をしました。クマタワ峠で昼食を取り石畳の山道を通り、落合橋に出た。石畳の山道は、昔の人々の生活道路として大切に守られていた事がしのばれる。林道横の萩の畑では、萩の木で風流な、垣根が作られる事を知りました。工房に立ち寄り日本の素晴らしい伝統の技を見せていただきました。龍穴神社までに冬イチゴの群生地が続きご馳走になりながら歩く、スズメウリの白い実に初めて出あった。カラスウリの赤い色とは対照的な色なので印象深い。川沿いに歩き龍穴神社の柿葺きの古社に着く。

6月に奥香落コースに参加したときは、雨上がりのお天気とフタリシズカなど花の季節でした。今回は実のりの季節。秋でないと出会うことの出来ない、赤い実、青い実、さまざまな色の果実や、種子に出会うことが出来た。私は、其の美しさに感激したけれど、植物たちにとっては、繁殖の季節なのだ、鳥たちに目立って、条件の良いところに子孫を運んでもらうための知恵なのか、と思うと自然の凄さに圧倒される。

今回は、素晴らしい天候に恵まれ、紅葉の季節、楽しい学びとなりました。お世話をしてくださいました方々に感謝をこめて有り難うございました。



黒髪山自然塾・・・大盛況！！

樋口善雄

11月9日(日)奈良市黒髪山キャンプ・フィールドで開催された「少年達の秋のフェスタ」には、雨天にもかかわらず総勢120名余の人が集い、盛況裡に終了した。「人と自然の会」のほか、「陶器教室」と「アンゴラ太鼓教室」(元興寺支援の福祉施設)が協賛して参加した。まず午前中は、工作・粘土細工・ミニ太鼓作りの3班に分かれて体験。午後には全員でアンゴラ太鼓の大合奏を楽しむスケジュールであった。

したがって午前中には、われわれの工作班にも常時30名余りの子供が集中し、予測した材料も約80%を消費するほどの盛況であった。一方、その対応の多忙さも大変であった。今回の受け入れ態勢の方は、当会からの5名を含む7名の陣容であったが、最低10名のメンバーが欲しい現場だったと反省している。なおこのフィールドが将来教育実習場としても適した所であると実感した。



ヒナウチワカエデ ウリカエデ

秋色のみたらい溪谷を歩く

川井 秀夫

11月10日。曇りのち雨。大阪、奈良地方は、所によって早朝から雨模様。出足が殺がれたのか、参加者14名と、やや淋しい例会となる。

少し寒気を覚えながら、天川川合から天ノ川沿ひにスタート。雲は厚いが雨具の必要もなく、路傍の草木、紅葉を愛でながら足取りは軽い。紅葉もやや旬を過ぎた様だが、朝晩の冷え込みが弱く、地元の方は例年より今一つとのこと。だが、我々の目には針葉樹林の中に、楓、檜（マユミ）、錦木、山毛櫸（ブナ）、樺、檀香梅、朴、鷹の爪、と色彩の空間に心が震える。

溪流美また佳し。「みたらい」とは、御手洗、御盥と書き、昔高家の人々が深山の入り口で、この川の水で禊をしたとの伝説がある。幾つか渡る橋の名前も面白い。弁天淵橋、天保橋、白倉橋（累々とある岩肌を倉の白壁に擬したのか）御手洗橋、哀伝橋（昔 哀しい伝説があったのか）虹越橋など、圧巻は光の滝を遠望するみたらい滝の流れに沿う巨大な岩肌、重層の岩盤が大自然の営みを象徴する。景観に酔ひながら昼食。旨い。

少し上りが続く。岩壁を縫う様に、足元に気を使いながら金網（足下は空間）の遊歩道をひたすら歩く。やがて桧まじりの杉林に入り、珍しい幼木に出会う。ヒムロ（姫檜）である。ヒノキ科でサワラ（樅）の変種。葉はスギともヒノキともヒバとも、交配種の不思議さに遺伝子の神秘を感じる。

今日は、個人的にはモミジの勉強をさせて頂いた。ハウチワカエデ、フカギレオオモミジ、ウリハダカエデ、オオイタヤメイゲツ、アサノハカエデ、ウリカエデ、コミネカエデ等々、新めて葉形の違いを頭に焼きつける。また忘れるかな・・・。

終着の洞川温泉郷では雨繁く、冷えた体を早々と桧造りの湯船に浸す。満福。満福。

いつもながら、案内役の弓場 厚次 氏。植物観察の指導役 寺田 正博 氏に感謝。

私の感想に代えて



イロハモミジ

みたらいの三彩に酔ふ初しぐれ

天川の岩嘴むほどに水澄めり



オオイタヤメイゲツ



コミネカエデ



オオモミジ



ウリハダカエデ

クリスマス植物の由来

寺田正博



キリスト教最大の行事には、セイヨウヒイラギやヤドリギが飾られ、モミやトウヒのクリスマスツリーが立てられる。これらの植物はどうしてクリスマスと結びついたのでしょうか。日本で栽培されることは少ないが、セイヨウヒイラギはリース飾り、クリスマスカードなどでおなじみの植物です。分厚い葉には鋭い鋸歯があり、赤いきれいな実をつける。ヒイラギと似ているが植物分類上は縁が薄い。ヒイラギはモクセイ科でありセイヨウヒイラギはモチノキ科に分類されている。区別点はヒイラギの果実が黒いのに対して、セイヨウヒイラギの方は赤い。またセイヨウヒイラギが五月に咲き、秋から冬にかけて赤く彩られるのに対し、ヒイラギの花は十月から十二月に開き、春に熟す。従って、クリスマスの頃に実はない。葉もヒイラギは対生でセイヨウヒイラギは互生である。またよく似た中国原産のヒイラギモチの葉は四角状楕円形である。

どうしてセイヨウヒイラギがクリスマスに利用されるようになったのだろうか。

キリストが十字架にかけられた時にかぶらされた茨冠に用いられ、キリストの血で赤く染まったからだと言う説があるが、セイヨウヒイラギはパレスチナの地には分布していない地中海地域以外の北ヨーロッパに現住していたケルト人が、冬至の祭に家の周囲をこの木で飾り精霊を迎えたのに由来するという説。これはケルト人の常緑樹信仰に由来し、ケルト人はこの木を聖木と崇め、生木を火にくべることを禁じていたといわれる。

また、十二月に行なわれる古代ローマの農業神サトゥルヌス（サターン）の祭りで、この木を飾って犠牲のロバをほふったのに由来するという説。

8世紀、ドイツにキリスト教の布教におもむいた聖ボニファチウスは、ゲルマンの人々がヨーロッパナラヤヨーロッパモミなどの老樹を神聖視していたため、それらの木を切り倒して、改宗を説いた。ゲルマン人には樹木崇拜が脈打ち、冬には聖なるヨーロッパモミを部屋に飾ったりしていた。これが後にキリスト教の行事に吸収され、変形してクリスマスツリーになった。一説には、マルチン・ルター（1483～1546）が、蝋燭を木に灯して星の輝く天を表そうとしたことに由来するとされるが、クリスマスにヨーロッパモミが飾られた文献上最古の例は1539年にアルザス地方のスラスブルグ大聖堂のものでその後この地方でこの風習が行なわれるようになったのだという。（「樹」リチィ著）

クリスマスツリーの木としてはモミが著名だが、混同されていることが多い。

ヨーロッパモミはドイツ南部以西のヨーロッパに自生するが、北欧やイギリスにはなく、それらの地域でのクリスマスツリーの主役はドイツトウヒである。モミとトウヒはよく似ているが果実がモミは直立し、トウヒは垂れさがるので区別できる。

日本でモミとよばれてクリスマスツリーに使われているのはほとんどがドイツトウヒです

キリスト教以前には、北欧にもさまざまな神がいた。それら神話もクリスマス植物の由来を物語る。夏を象徴する光の神バルデルは、冬の神ホデルによって殺される。不死と思われていたバルデルが死ぬのは、セイヨウヤドリギの矢で射られたからである。ヤドリギは光の神の生死をにぎる重要な植物とみられていた。日本のヤドリギはセイヨウヤドリギの亜種で、果実は黄色い。母種のセイヨウヤドリギの果実は白い。イギリスには、クリスマスイブにセイヨウヤドリギの飾りの下にいる女性とは自由にキスをしてよいという風習がある。古代の儀式の名残といわれている。

参考引用文献 「植物と行事」湯浅浩史 「草木スケッチ帳ⅠⅢⅣ」柿原申人 他



ネイチャーなら
奈良・人と自然の会
第3回 東海自然歩道...自然観察会

師走の静かな「室生寺」より、東海自然歩道・門森峠を超えて大野寺に向います。前回は春真っ盛りの5月、ホウチャクソウの群落やムロウテンナンショウ等が観察出来ました。今回は女人高野から里山を巡る、初冬の自然観察をしませんか。

〈コース名〉 ③ 室生寺 (むろうじ) [6 km]
 〈日 時〉 12月8日(月) 9時10分 集合
 〈集合場所〉 近鉄室生口大野 : 駅前駐車場

・西大寺〔橿原神宮前行急行〕7:56...八木8:17 or 〔西大寺〔天理行急行〕8:07...平端8:16乗換...八木8:36〕

・近鉄ナンバ〔奈良行準急〕7:57...鶴橋8:02乗換〔青山町行区快〕8:07発...八木8:37...室生口大野9:02

〈行 程〉 室生口大野(バス)室生寺~門森峠~大野寺~室生口大野
 〈参加費〉 資料代等として10月から3月までの半期分:@200円を申し受けいたします。
 〈担 当〉

大石門三

寺田正博

弓場厚次



ネイチャーなら
奈良・人と自然の会
第4回 東海自然歩道...自然観察会

新年の東海自然歩道、初歩きは大和富士と呼ばれる額井岳(822m)の山麓を巡り、国見山や室生火山帯の山々を遠望しながら、戒長寺では天然記念物指定「お葉つきイチョウ」の冬芽を観察し、さらに室生湖畔から大野寺へお正月の自然観察会を行います。気楽にご参加ください。

〈コース名〉 ④ 額井岳 (ぬかいだけ) [12 km]
 〈日 時〉 1月19日(月) 9時 集合
 〈集合場所〉 近鉄榛原駅 : 北駅前バス乗場(針インター行)

・西大寺〔橿原神宮前行急行〕7:56...八木8:17 or 〔西大寺〔天理行急行〕8:07...平端8:16乗換...八木8:36〕

・近鉄ナンバ〔奈良行準急〕7:57...鶴橋8:02乗換〔青山町行区快〕8:07発...八木8:37...榛原8:50着

〈行 程〉 近鉄榛原...玉立橋~戒長寺~室生湖~大野寺~室生口大野
 〈参加費〉 資料代等として10月から3月までの半期分:@200円を申し受けいたします。
 〈担 当〉 川井秀夫 寺田正博 弓場厚次

1月例会 河野猪太夫先生と歩く奈良公園自然観察会と講演会

日時 1月27日(火) 9:00

場所 近鉄 奈良駅 地上階 行基菩薩噴水前 集合

行程 9時~12時頃 奈良公園(飛火野~春日山原始林入口)

講演会 1時30分

会場 未定

講師 河野猪太夫先生(環境カウンセラー) 9月「明日香の彼岸花」観察会講師

演題 繊細な地球と環境問題(仮題) 詳細は1月号にてお知らせいたします



1 1 月度幹事会報告

1. 日時 11月7日(金) pm6:00~9:00
2. 場所 奈良県文化会館
3. 司会 小山 記録 寺田
4. 出席者 川井 豊島 弓場 阿部 大石 大寺 小山 樋口 寺田
5. 議事

[報告事項]

- (1) 会員動向 88名(11月7日)
会計報告 95,567円(10月31日現在残高)
- (2) 10月度例会「生駒山麓を歩く」自然観察会 参加者 23名
蜂(アシナガバチ)被害 2名 大事に到らず
- (3) 「いこま棚田クラブ」
シニア自然大学の自然保護部会の活動機関として正式に独立し、発足。
行事企画、運営、管理は「いこま棚田クラブ」幹事会が行なう。
* 「奈良・人と自然の会」は、行事案内、行事参加等に協力する。
- (4) 「黒髪山工作教室」 11月9日(日)の準備打ち合わせ会10月18日実施
行事参加予定者 約100名
スタッフとして「奈良・人と自然の会」より5名参加予定
- (5) 「東海自然歩道 自然観察会」第2シリーズ
第1回 曾爾高原 中太郎生~亀山峠・曾爾高原~太良路
参加者 38名 素晴らしい快晴に恵まれ、薄が原にも感激した楽しい観察会でした

[承認事項]

- (1) 11月度例会 11月10日 秋色のみたらい溪谷 下市口駅9:10集合
- (2) 第2回 東海自然歩道・自然観察会 11月18日 名張駅8:50集合

[討議事項]

- (1) 12月度例会 「大和三山巡りと忘年会」 担当 豊島 勝田
12月1日(月) 近鉄八木駅北側 10時集合
解散後忘年会を行なう 会場未定
- (2) 12月18日(火) 第2回「東海自然歩道・自然観察会」
8:50 近鉄名張駅集合 下見12月3日(水) 担当 大石
- (3) 国有林間伐ボランティア実施予定地下見 11月19日予定
- (4) 1月度例会 奈良公園自然観察会と講演会 日時 講師、会場未定(寺田)
2月度例会 野鳥観察会 日時 場所未定
- (5) 東海自然歩道自然観察会 参加費(資料代等)200円徴収(前半6回分)
- (6) 中途入会費 1500円 3月まで(保険加入せず)暫定措置

編集後記：遅かった紅葉が平地でもやっと始まりました。ツグミ、ジョウビタキやマガモ、コガモ、ヒドリガモなどの冬鳥たちも姿を見せています。身近な自然の楽しみを紹介ください。

編集担当 : 勝田 均

Tel&Fax:

奈良・人と自然の会事務所

会長 川井 秀夫

東海自然歩道 自然観察会 第二回シリーズ 第1回 (10/30)

(快晴)

一言感想

- ・ 天気に恵まれ、よい写真が撮れてよかった。
- ・ 白いツリフネソウを初めて見た。
- ・ ツチアケビの実を初めて見た、硬かった。
- ・ 20年ぶりの曾爾高原で感激した。
- ・ 曾爾高原へ初めて来てよかった、ススキもきれい。
- ・ 6月から又参加した。草の名前がなかなか覚えられない。
- ・ 天気よく気持ちよく歩きました。
- ・ ススキがきれいで楽しかった。
- ・ ススキをデジカメに収めることが出来てよかった。
- ・ ガンクビソウ、ハエドクソウ、ハガクレソウなど見られて面白かった。
- ・ ハイキング日和で楽しかった。
- ・ 曾爾高原には3回目だが、いつもバスで来ている。歩いてみてこの方がよかった。
- ・ ツルリンドウの実が赤くてきれいでした。
- ・ 青い空とススキの白がとてもよかった。
- ・ 前に自然大学で来たので、とても懐かしい。
- ・ ツチアケビの群生をはじめて見た。
- ・ いつも作って下さっている寺田さんの資料を家に帰ってよく見ます。
- ・ 久しぶりの参加です、一泊研修を思い出しました。
- ・ 季節の移り変わりが素敵です。
- ・ 青空と白いススキ、でもベニバナボロギクはかわいそうな名前です。
- ・ 個人でハイキングに行っても花の名前は少ししか出ませんが、今日は沢山出ました。
- ・ 初めて参加、楽しかったし、勉強にもなった。
- ・ 初めて参加、ハイキングは娘時代から初めてでこんなに気持ちのいいものかと。
- ・ 初めて参加、草の名前も家に帰ったら忘れるだろうけど。
- ・ 下見でウメバチソウを見つけておいてくれてありがとう。
- ・ ツチアケビの花を見てあったが、今日はその実を見られた。
- ・ 曾爾は2回目。今日歩いてよかったが、ススキは思ったより丈が短かった。
- ・ 9キロの良いコースだった。楽しかった、今後もよろしく。
- ・ たくさんの木と花の名前を教えてもらった。
- ・ この逆コースで亀山峠に出た途端、鎧岳、兜岳が見られてよかった。
- ・ 逆コースの企画良かった。
- ・ 蜂にも遭わずよかった。
- ・ ススキが少しオーバー気味だが、陽に当たるときれい。この自然をいつまでも大切に。
- ・ いいお天気で初参加者も多くよかった。11回に分けて奈良に戻ります。支援よろしく。